

# アルコール関連問題 家族ぐるみの回復支援を！

家族支援／民間団体支援

特定非営利活動法人アスク

今成 知美



# アルコール関連問題に取り組む主な民間団体

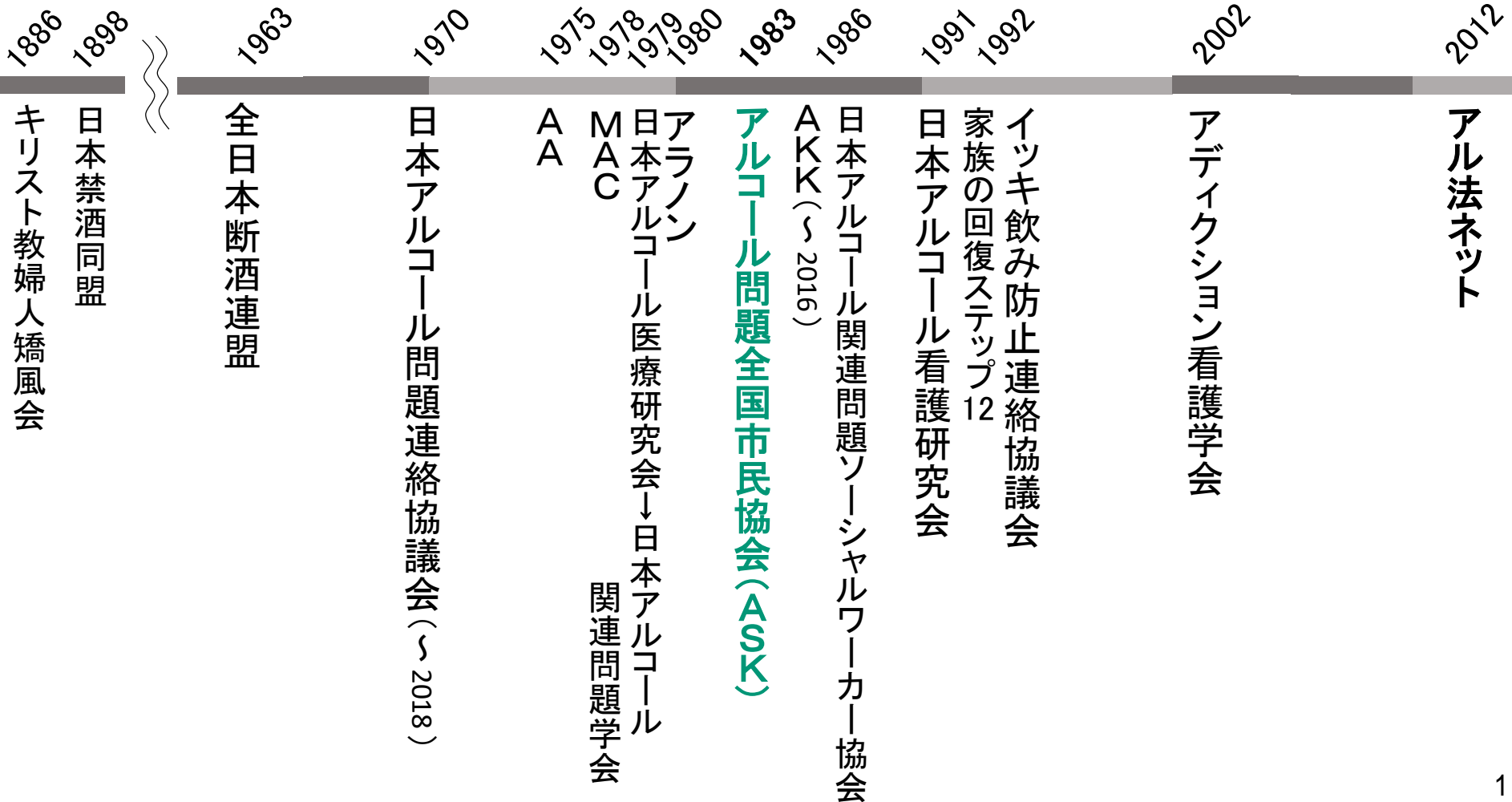
## 主な関連法の制定

1922 未成年者飲酒禁止法

1961 酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律

アルコール健康障害対策基本法 2013

2001  
危険運転致死傷罪





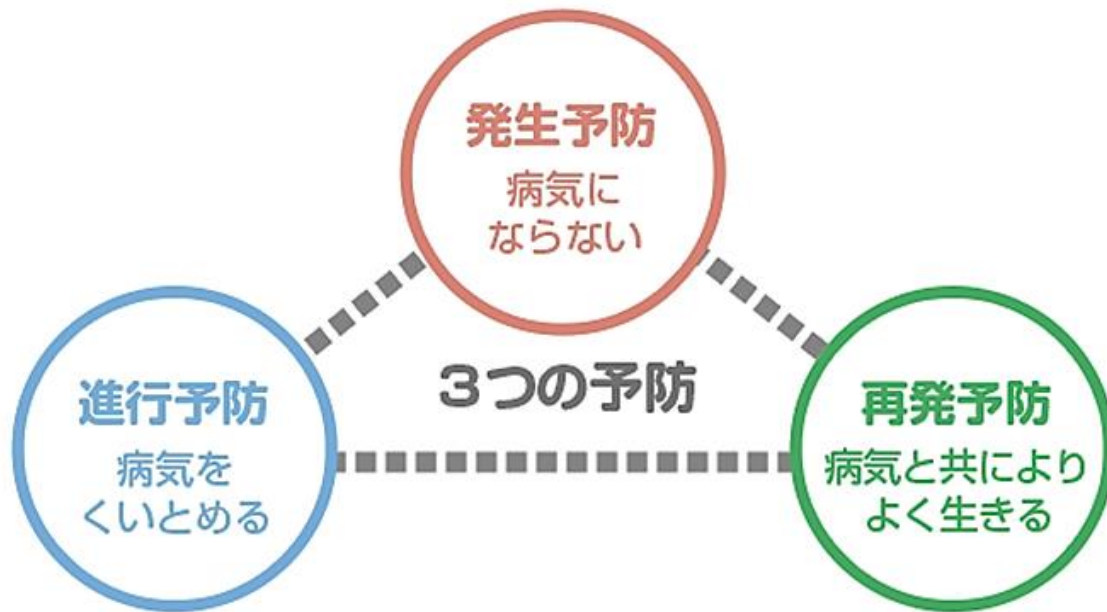
特定非営利活動法人  
アスク

#### 事業

- 社会啓発・教育
- 出版物・教材等の制作・頒布
- 人材の養成
- 対策に関する提言・コンサルテーション
- ホームページやSNS等の設置・運営
- 地域の機関等を紹介する相談事業
- 調査・研究
- その他必要な事業

# アルコールや依存性薬物をはじめとする様々な 依存関連問題の「3つの予防」にとりくみ、 回復を応援する社会をつくる

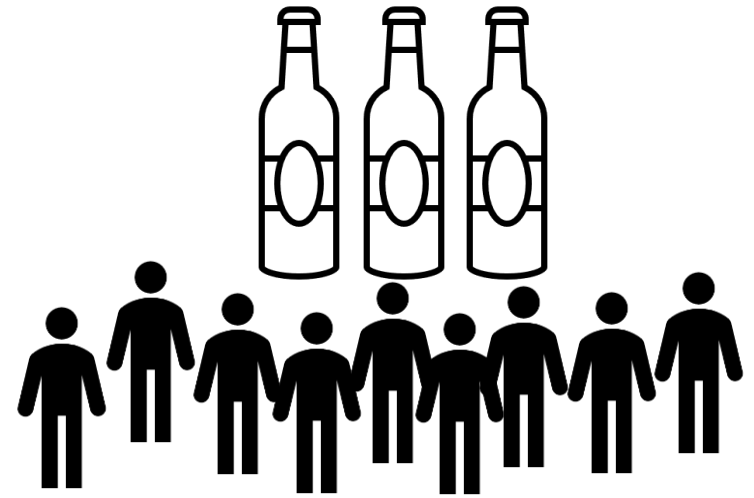
啓発・予防教育  
適正な社会規制



早期発見・早期介入  
依存症の偏見是正

回復を応援する社会  
家族ぐるみの回復  
世代連鎖を防ぐ

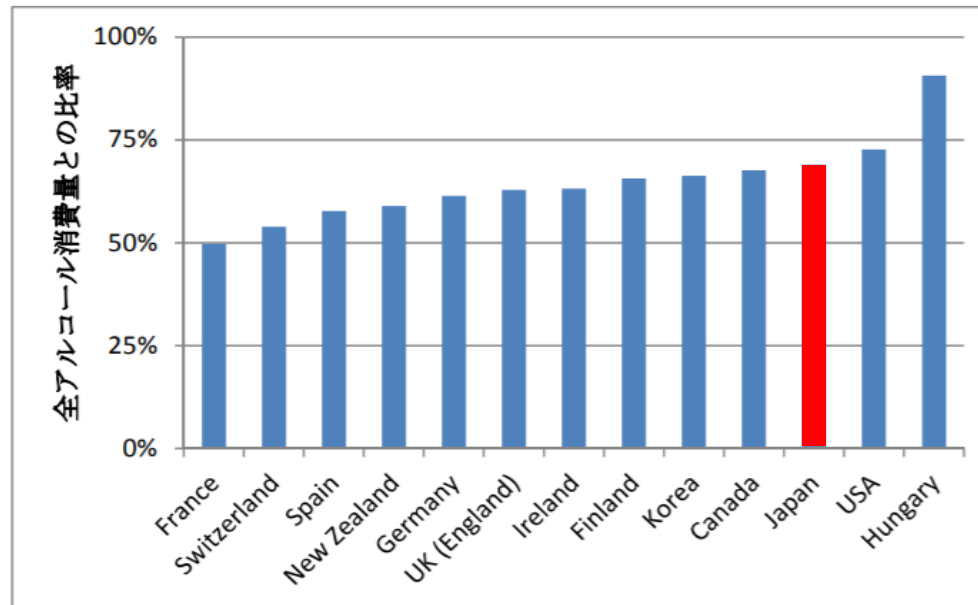




日本はよく飲む2割が、7割のアルコールを消費している！

### 最も飲酒が多い 20%の人口によるアルコール消費量

OECD Tackling Harmful Alcohol Use Economics and Public Health Policy 2015



## せんせい、あのね

小一

おとうさんね  
いつも おさげばっかし  
のむんだよ  
だから  
こまった  
こまった  
こまった

## 父

小六

父は、かくれて、お酒をのむ  
ベテランだ  
母の目をぬすみ  
おしいれ、台所を  
ごそごそ、  
いっしょけんめいさがす  
さがしている時の父の目は  
仕事をしている目より  
真剣だ  
よく見ると、  
父がねずみに化けているように  
ぼくには見えてくる  
かくし場を見つけた時の父の目は  
うれしそうにかがやいている  
もうすぐ母が帰ってきそうな気がする  
どうなるかな  
ぼくは、しらんぜ

## おとうさんの がんばりカード

小二

わたしは まいにち  
あたまの 中で  
おとうさんの がんばりカードを  
つけています  
いまの てんは 二二〇点です  
おさけを のまなかったら  
一〇〇点です  
四かい おさけを のんだら  
すぐ二二〇点に もどります  
わたしは においで わかります



# 将来の問題飲酒の要因は、よく飲む親 と 中学での飲酒開始 中学生を10年間追跡調査



1997  
13.5歳



18.5歳



2007  
23.8歳

よく飲む父親

1. 中学で飲酒

2. 友達からの飲酒を断れない

3. 親に悩みごとを相談しない

**問題飲酒**

**問題飲酒**



遺伝的要素  
飲むのが当然の環境  
親が酒を勧める

鈴木健二, 松下幸生, 樋口進ら:  
未成年者飲酒問題コホート研究, 10年間の追跡結果.  
日本アルコール・薬物医学会雑誌 46:470-485,2011.10



## 多量の飲酒による「酩酊」「泥酔」 は子どもに大きな影響を与える

- 子どもは酔っている親を心配したり、恥ずかしく感じたり、困ったりしている
- 親の夫婦喧嘩、夫婦関係の緊張を肌で感じている
- 自分がなんとかしなければと思う
- 酔った上での事故が起きることもある
- 酔いにまかせたDV(暴言暴力)を目撃することもある
- 子ども自身が虐待にあうこともある(ネグレクトを含め)
- 飲むのがふつうの環境なので、早期に飲酒を開始する可能性がある
- 将来、親と同じように飲酒問題をもつ確率も高い(世代連鎖)

# 内科・救急から介入できていれば…



16歳

- 22歳 就職、顧客とのつきあいで酒量が増える
- 26歳 結婚
- 27歳 **長男が生まれる**
- 28歳 十二指腸潰瘍で入院(T病院)
- 30歳 十二指腸潰瘍で手術(N病院)
- 34歳 野球で骨折し通院(H医院)、再度骨折し手術(N医大)
- 36歳 酒が原因で上司と喧嘩し退職、友人と企画会社設立
- 40歳 酔って駅階段から転落、頭部裂傷で救急搬送(N医大)
- 41歳 泥酔し道で寝て通行人が連絡、救急搬送、点滴して帰宅  
内科受診、慢性肝炎だが入院の必要なしと診断(T医大)
- 42歳 会社を閉め転職したが1ヵ月で退職、離婚、自暴自棄に
- 43歳 専門病院でアルコール依存症と診断⇒自助グループ



# アルコール健康障害

不適切な飲酒の影響による心身の健康障害

アルコール依存症その他の多量の飲酒、未成年者の飲酒、妊婦の飲酒等

飲酒運転、暴力、虐待、自殺等の問題と密接に関連

本人の健康問題

家族への深刻な影響

重大な社会問題

害の少ない使用  
(ローリスク飲酒)

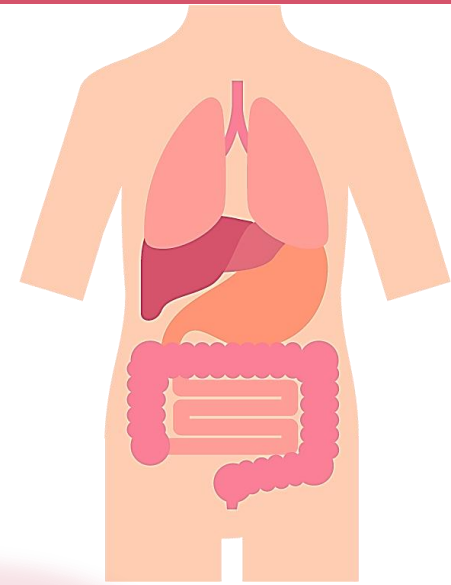
有害な使用  
(ハイリスク飲酒)

依存症

不適切な飲酒

**体の病気** 食事もとらない **衰弱**

死んでしまうのではないか



**飲酒運転**

火災の心配

**事故やケガ**

路上寝

夫婦喧嘩

**泥酔**

一人で風呂に入れない

**暴言暴力**

**家庭崩壊**

失禁 歩行困難

離婚

酔って大声

近所迷惑

仕事に行かない

生活費やローンの支払いに困る

**失職**



アルコール依存症家族へのアンケートから

# ASKに寄せられた家族の声

**内科**を何度も受診しているけれど、**飲める体に治す**だけ。

医者から「**一杯だけ**」と言われ、飲み出す。

離脱症状に救急車が対応してくれない。搬送先が見つからない。

**酔って暴れる**ので交番に行ったが、警官は来てもすぐに帰ってしまい、「警察に言いつけやがったな」とまた暴れる。

「妻が悪いから飲むんだ」と夫の親戚から**責められた**。

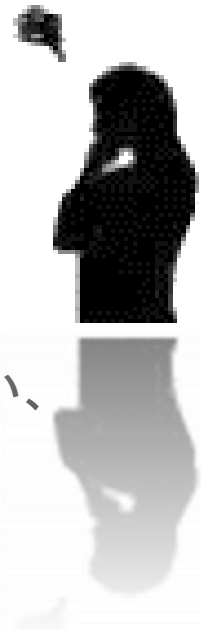
依存症と診断されたら、勤め先を**クビ**になるのではと、心配でたまらない。

**飲酒運転**で出て行ってしまおう。どうやって止めればいいのか。

専門医療に相談したら、「**酒を切ってから連れてきて**」と言われた。それができないから困っているのに。

せっかく断酒したのに、職場や地域が、**酒をすすめる**。

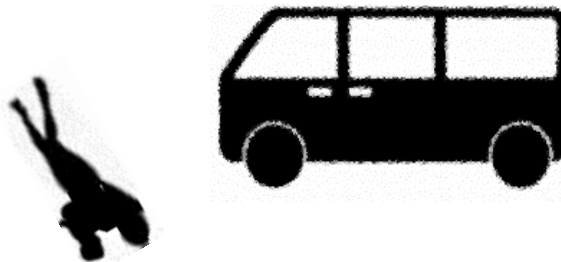
どこに相談したらいいかわからない。相談しても、**たらいまわし**。



# 〈岐阜〉飲酒運転止めるため 2歳児抱き路上に横たわった 妻をひく、夫逮捕

2016年8月2日

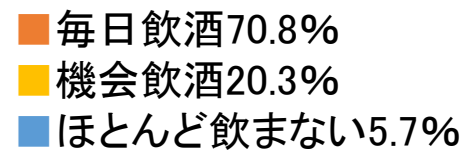
- 夫(38)は午後11時40分ごろ、飲酒後に自宅からワンボックスカーで外出しようとした。
- 妻(41)は、飲酒運転を止めようと、次男(2)を抱いたまま車の前に横になった。



- タイヤの一部が妻の体に接触し、妻は腰を打撲。次男にけがはなかった。夫は「覚えていない」と容疑を否認している。

# 不慮の事故死の2割が飲酒群

東京都23区 20歳以上の不慮の死1060例 東京監察医務院2015



**1位 転倒・転落 31.6%**



階段53.7% 路面20.9% ベランダ・窓・外壁6% ベッド脇3.0% 駅ホーム3%

【飲酒群】

**2位 溺水 22.2%**

自宅83.0% ホテル8.5% 公衆浴場4.3% 海・川4.3%

**3位 窒息 15.6%**

自宅73% 飲食店24%



**4位 中毒 11.3%**

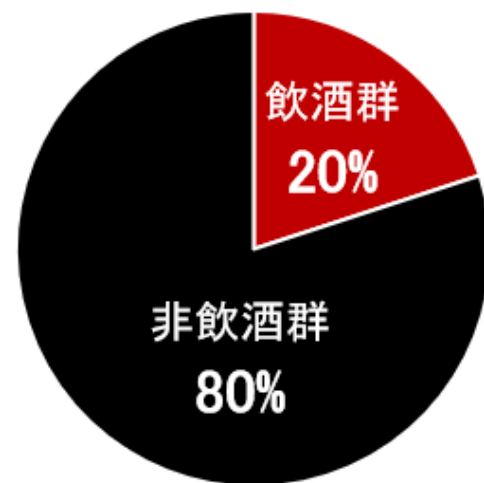
自宅67% 飲食店12% 帰路途中13% 勤務先4% ホテル4%

(急性アルコール中毒が3分の2 残りは酒+向精神薬)

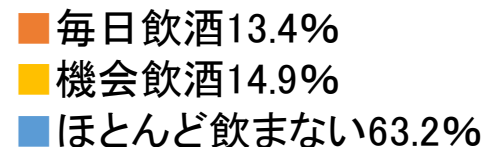
**5位 交通事故 10.8%**

道路60.9%(4分の3は歩行者、残りは自転車) 駅ホーム・線路39.1%

**6位 火災 3.8%**



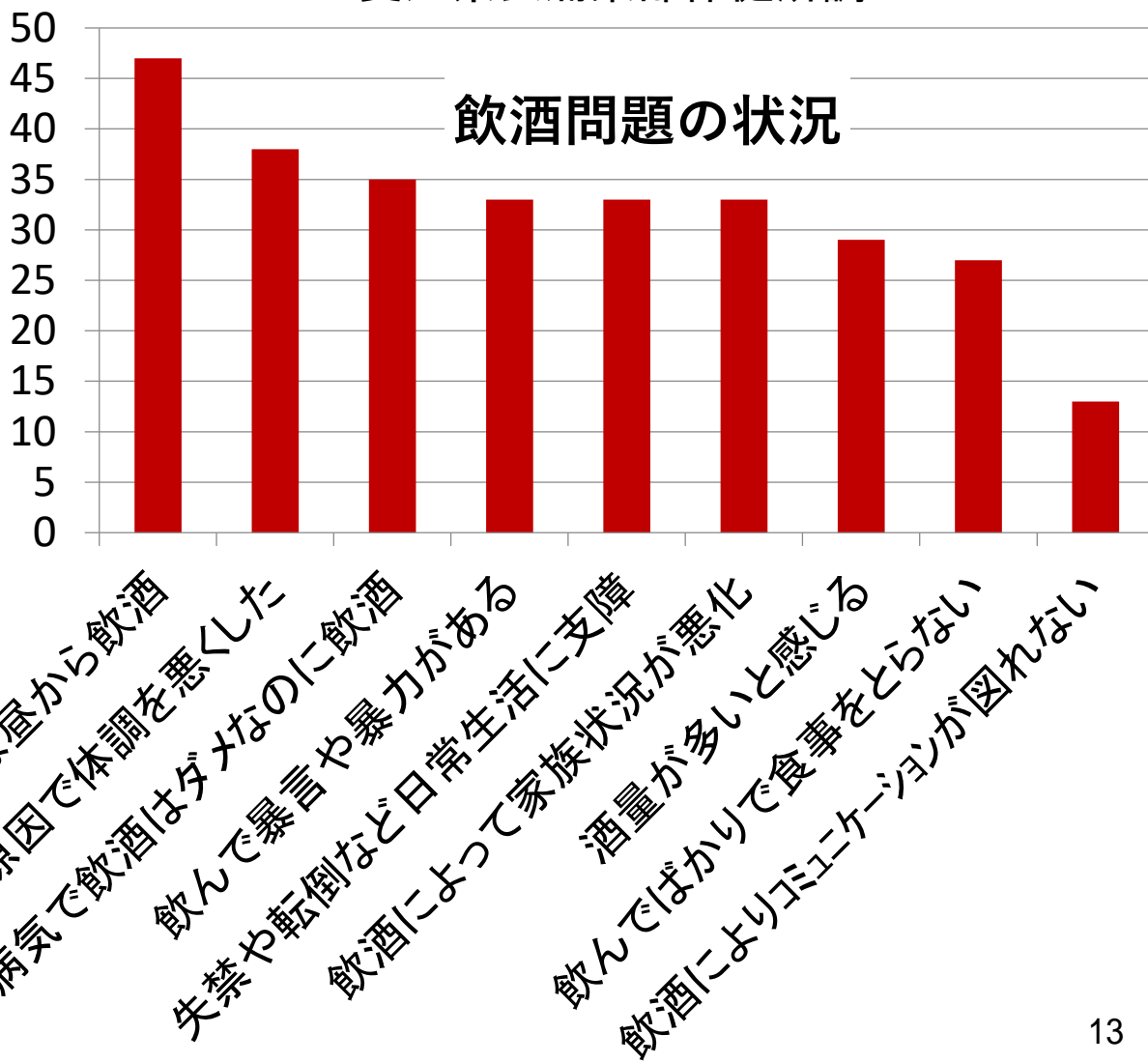
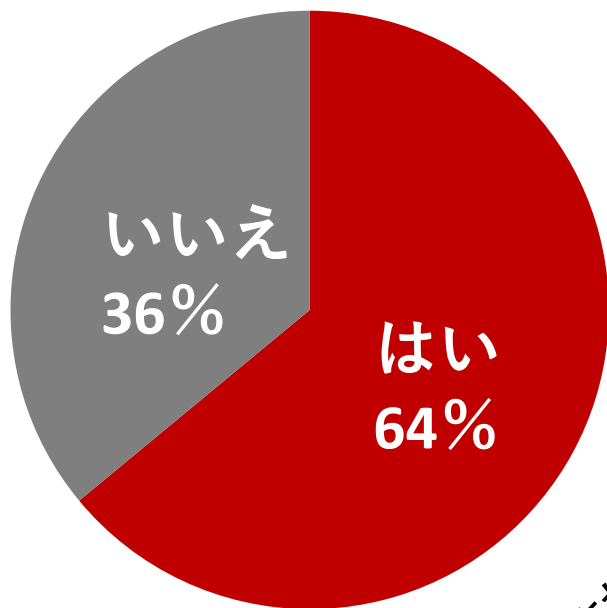
【非飲酒群】



# 介護現場におけるアルコール関連問題に関するアンケート

対象：地域包括支援センター職員  
愛知県衣浦東部保健所調べ H26

利用者の飲酒状況に問題を感じたことがある



# シニアの飲酒問題 ASKに寄せられた娘・息子たちの声

## 60代

■父親が1日に一升瓶2本飲み、**素面のときがない**。暴言だけで暴力はないので、警察も注意だけ。病院にも相談したが、強制入院はできないとのこと。母親に「出ていけ」と言っているのに、母は出ていくつもり。長女家族が隣に住んでいるが、引っ越しを考えている。

■離婚して一人暮らしの父が、**泥酔して警察に保護**。前からよく飲んでいたがひどくなった。本人は治療する気になっているので病院を教えてください。

## 70代

■トラック運転手を退職した父が、コンビニに**飲酒運転**で出かける。

■父には、とりあえず1ヵ月禁酒できたら、お酒を減らして飲んでもいいと言ってきたが、**何回も失敗**している。母への**暴言**もある。

■郷里にいる父は母と年金生活しているが、長年の飲酒で貯金を使い果たした。離れて暮らす娘が**仕送り**と**金銭管理**をせざるをえない。

## 80代

■父親が酔って、母と二人になるとDV(**暴言妄言**)。「近所のスーパーの店長と浮気してるだろ」などの言葉を吐くため、母親は外に出られない。

## 90代

■父が、専門病院4軒に入院を断られた。**幻覚**が出ると戦時中に戻る。

■祖父が何が何でも**酒を買い**に出れば**転んでケガ**。家族は疲れ切っている。





# 女性の飲酒問題 ASKに寄せられた家族の声

## 娘・息子

- 母に飲酒問題があり、小3と小4の妹が心配。内縁の父は何もしてくれない。児相に相談したが「父親がいてお金があるから動けない」と言われた。(高校生から)
- 母が夕食を作りながらずっと飲んでいる。
- うつを患っている母が、アルコールが入ると、**暴言**がひどくなり会話にならない。
- 母のアルコール依存症で10年程悩んでいる。昨夜母を殺しそうになった。警察に相談し、昨夜は別々に過ごした。離れて暮らしたい。どこに相談すればいいか？

## 母

- 娘(30代)が日にチューハイ4本ほど飲む。やめさせたいが周りの理解がない。
- 娘(30代)がアルコールと薬物(精神安定剤)に依存し入院中。自助グループにも行ったが、まわりとなじめず続かない。

## 姉

- 妹(40代)がアルコール依存症。酔ってタクシーを利用途中にコンビニで焼酎を買い、**車内で酩酊**したためドライバーが交番に。母親も疲れ切っている。

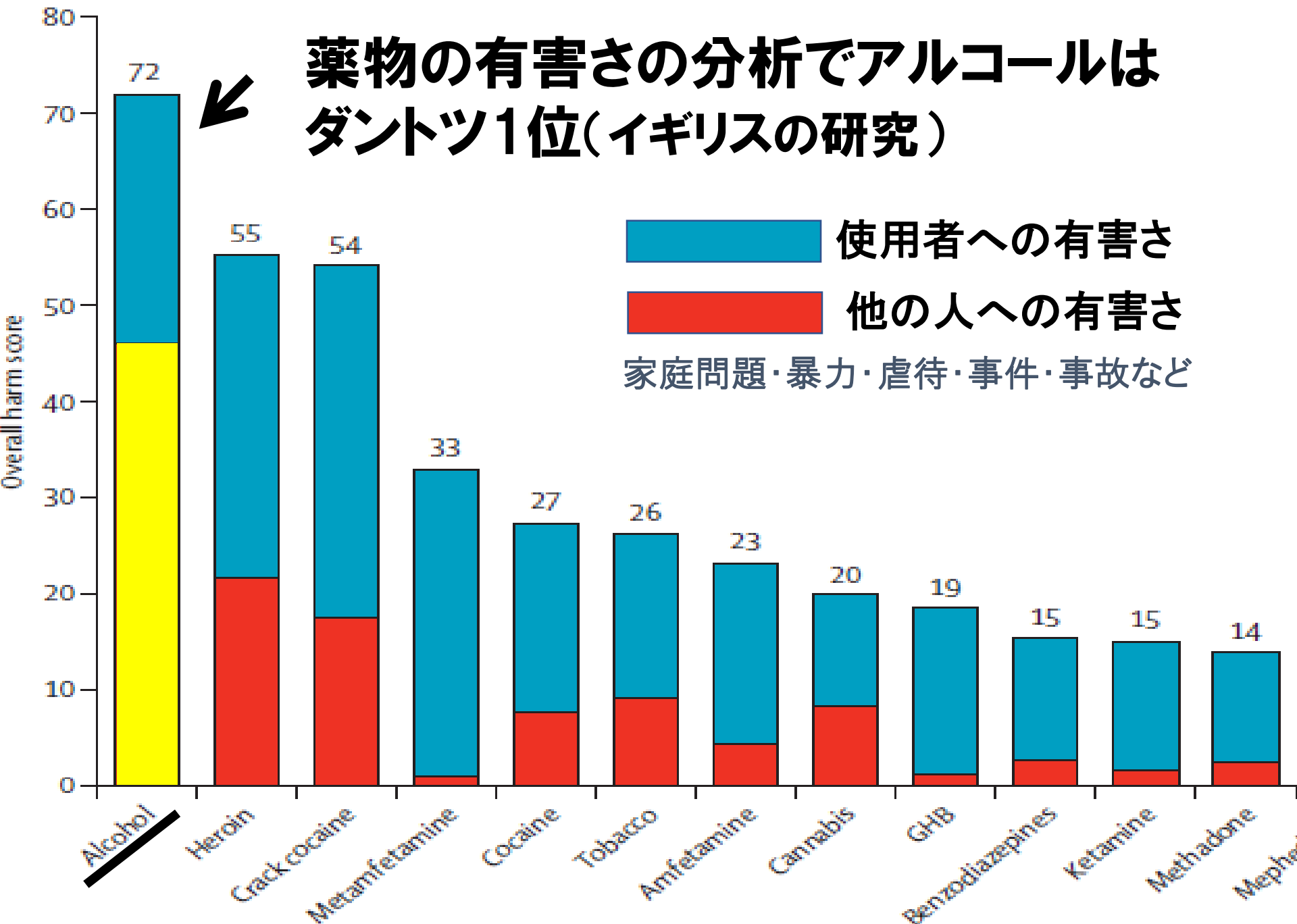
## 夫

- 妻がアルコール依存症で困っている。**暴言・暴力**で、近所の人々が警察を呼ぶと、その時はおとなしくする。子どもが5歳で、児相からも注意を受けている。
- 妻が十年前からビール500mlを日々10本飲み、**リストカット**。成育歴が複雑で実家の支援を得られず、1歳の子どもは自分の実家に預けている。
- **妊娠中**の同棲相手が、朝から飲酒している。

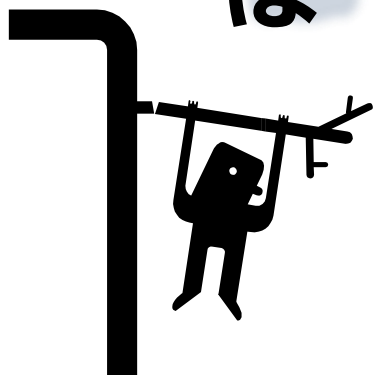




# 薬物の有害さの分析でアルコールはダントツ1位(イギリスの研究)

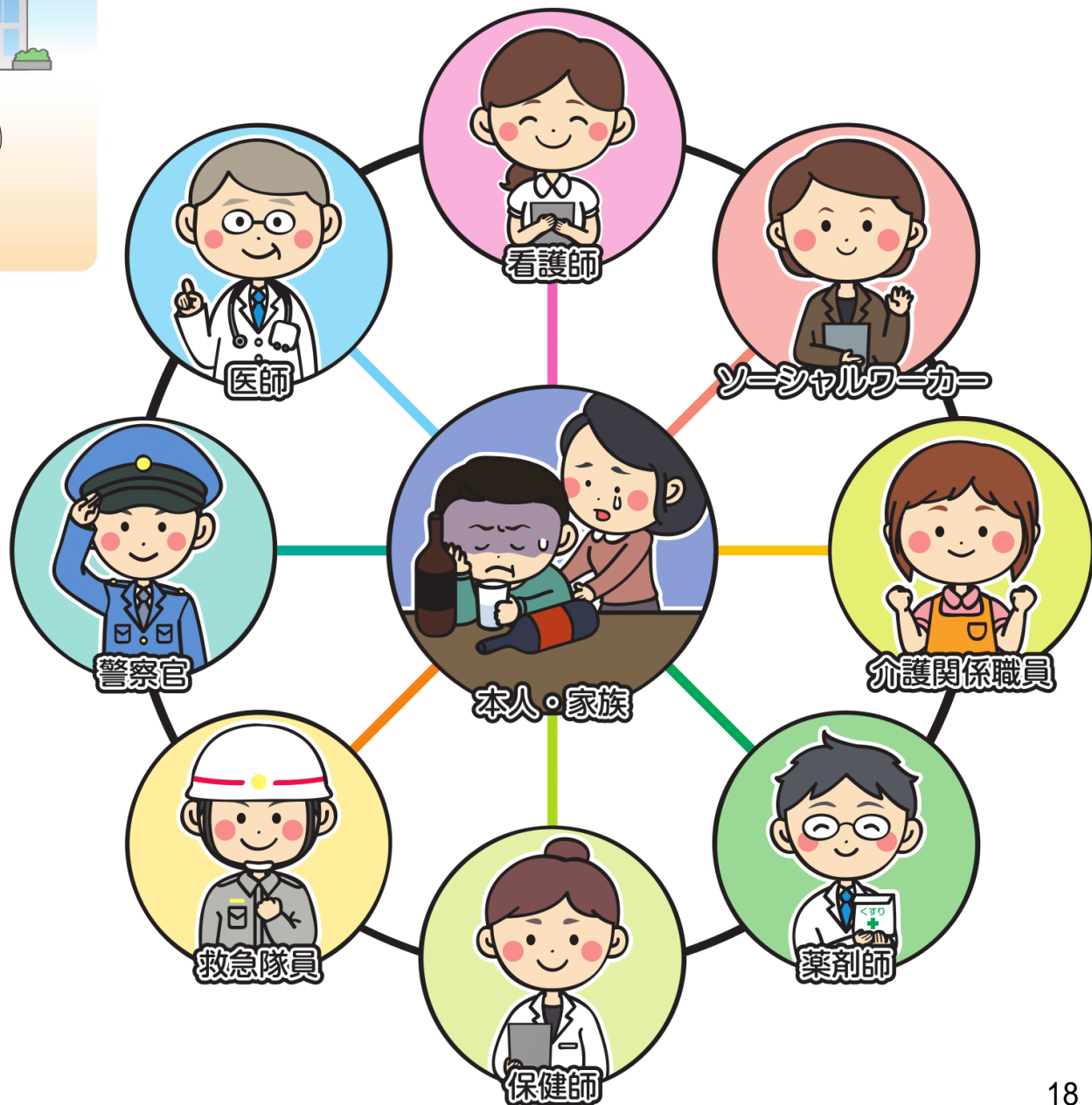


飲酒問題を持つ人は  
自分から  
助けを求めない…



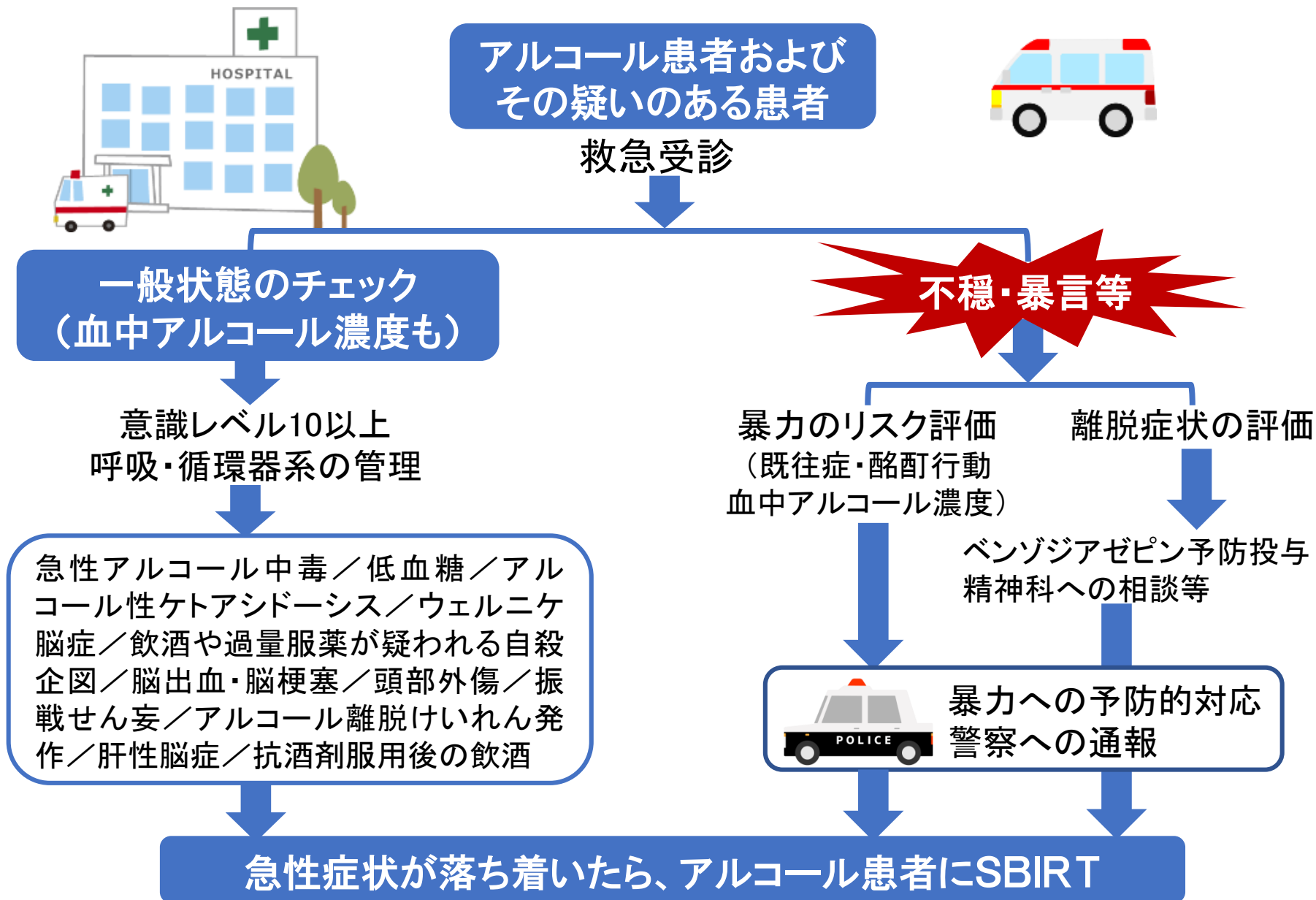


# 四日市 アルコールと 健康を考える ネットワーク



猪野亜朗 医師

# アルコール救急多機関連携マニュアル



# 警察(生活安全課)⇒保健所

酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律

## 酩酊

道路、公園、駅、興行場、飲食店その他の公共の場所又は自動車、電車、乗合自動車、船舶、航空機その他の公共の乗物において、酔って粗野又は乱暴な言動をしている場

家族、知人その他の関係者に通知し、引取方について必要な手配をしなければならない(保護は、24時間)

身元引受人に相談先のパンフレットを渡す



## 保護

警察署、病院、救護施設等の適当な場所において保護

## 通報

警察官は、酩酊者規制法または警察官職務執行法の規定により酩酊者を保護した場合、**アルコールの慢性中毒者又はその疑のある者であると認めるときは**、すみやかに、もよりの**保健所長**に通報しなければならない

**保健所長**は、必要があると認めるときは、医師の診察を受けるようにすすめるなければならない。この場合、保健所長は、治療又は保健指導に適当な他の医療施設を紹介することができる

## 警察官職務執行法

### 泥酔

泥酔のため、自己又は他人の生命、身体又は財産に危害を及ぼすおそれのある者

### 立ち入り

酩酊者がその者の住居内で同居の親族等に暴行をしようとする等、親族等の生命、身体又は財産に危害を加えようとしている場合

地域連携があるとスムーズ

# 全国に広めよう！ <エスバーツ>

厚生労働省健康局「標準的な健診・保健指導プログラム」

**S**

Screening

**B I**

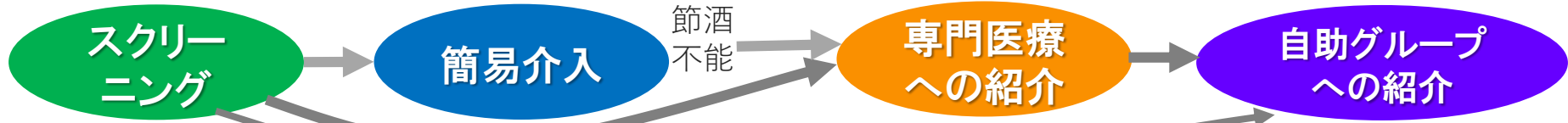
Brief Intervention

**R T**

Referral to Treatment &

**S**

Self-help groups



スクリーニングテストを使って飲酒問題の程度を確認

ハイリスク飲酒者には簡単なカウンセリングを行ない、節酒を促す

アルコール依存症の疑いがある場合は、専門医療の受診を勧める

回復のための自助グループにつなげる  
★本人だけでなく家族も

産業保健

一般医療

救急

警察

裁判所

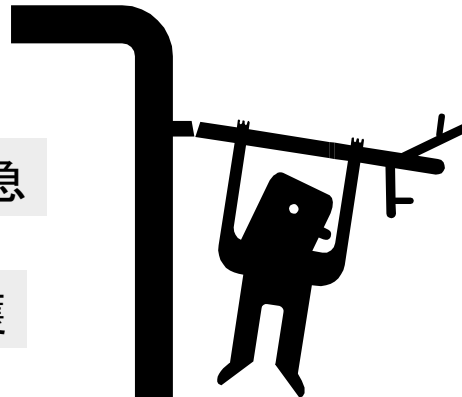
地域保健

福祉

介護

刑務所

保護観察



# 刈谷病院で本人にSBIRTSをやってみたら

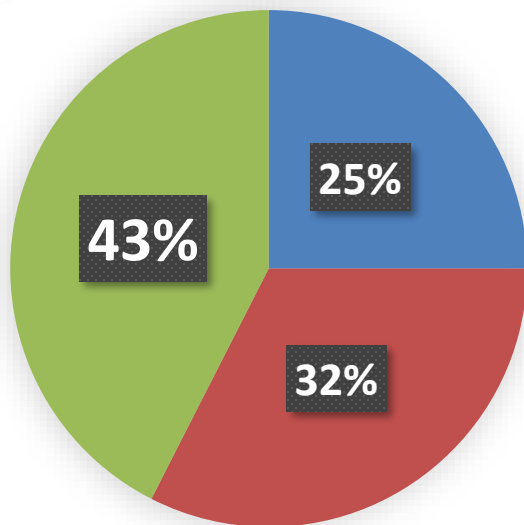


## 断酒会に行こうと思ったか？

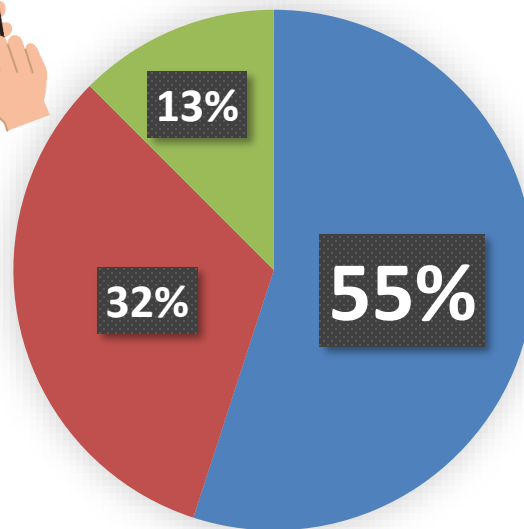
(本人 n=40)



電話前



電話後



■ 行ってみようと思った

■ 行こうか悩んでいる

■ 思わない

■ 行ってみようと思った 25% → **55%**

■ 行ってみようと思わない 43% → **13%**

# 刈谷病院で本人にSBIRTSをやってみたら

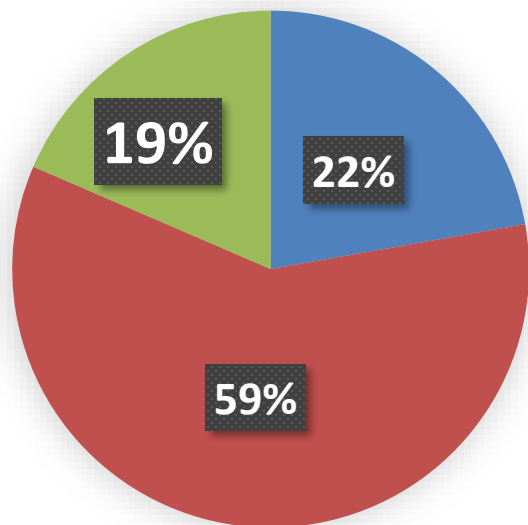


## 断酒会に行こうと思ったか？

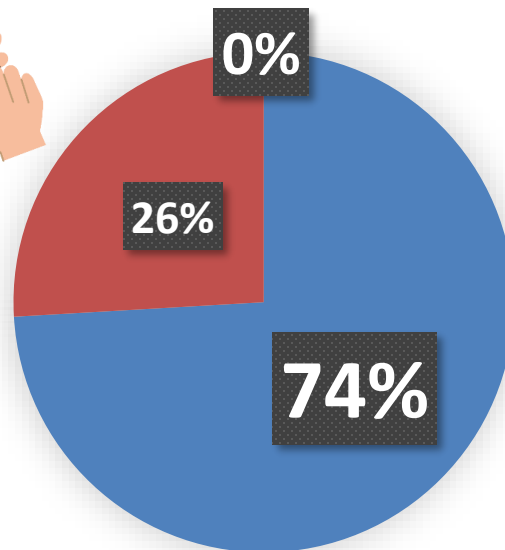
(家族 n=27)



電話前



電話後



■ 行ってみようと思った

■ 行こうか悩んでいる

■ 思わない

■ 行ってみようと思った 22% → **74%**

■ 行ってみようと思わない 19% → **0%**



京都府断酒平安会家族会みやび SBIRTS家族連絡会hana

## 家族が家族を迎えるエスバーツ

「当番表」と「家族会の開催カレンダー」を、毎月、協力医療機関に届ける

↓  
当番の日の診療時間中は、医療機関から電話が鳴ったら必ず出る  
直近の家族会を案内、

「よかったら、待ち合わせて一緒に行きましょう」と声かけする

↓  
LINEやメールで家族会員に情報を共有、  
他の支部からも数人が駆けつける



# <家族支援>は依存症対策のカギ

一人の依存症者の  
後ろには、何人  
もの家族がいる



- 本人はなかなか助けを求めない
- 最初に相談するのはたいてい家族
- 家族自身も疲れ果てている

## 家族支援

- ⇒ 家族自身が健康な生活を取り戻す
- ⇒ 依存症の正しい知識をもつ
- ⇒ 本人の回復のサポーターになる
- ⇒ 世代連鎖を防ぐ



## アルコール・薬物・ギャンブルの家族支援団体が 合同で厚生労働省に要望 (2017・12・25)



ASK(アルコール薬物問題全国市民協会)  
全国薬物依存症者家族会連合会(やっかれん)  
ギャンブル依存症問題を考える会  
全国ギャンブル依存症家族の会



これを契機に、各分野の家族が、依存症の理解を深める普及啓発事業の企画委員に



## 1. 医療—内科・救急・精神科と専門医療

- ①アルコール関連疾患を扱う**内科・救急・精神科**などの一般医療機関で、依存症の診断ができ、専門医療への紹介が進むよう、**SBIRT(S)**研修を広く実施する。この動きを促進するため、**SBIRT(S)に診療加算**をつける。
- ②**総合病院**の中では、救急・内科・精神科等が連携して依存症を見逃さず介入する体制をつくる。
- ③地域の自助グループや回復施設と連携して依存症を診療する**一般精神科**や**心療内科**を増やす。
- ④**専門医療機関**が行なう**家族へのカウンセリング**や**家族教室**に、**診療報酬**がつくようにする。
- ⑤医療から自助グループにつながる人が減っているため、**専門医療**など関係機関スタッフの自助グループでの**実地研修**を促すとともに、自助グループにつなぐノウハウ**SBIRTS**を普及させる





## 2. 家族への相談支援

- ①よく相談にきた、大変だったでしょうと、ねぎらう。(まず**気持ちのサポート**を)
- ②「家族も病気」と**いきなり決めつけない**。依存症について説明し、家族が陥る状況と間違った対応(イネイブリング)が事態を悪化させることを伝えた上で、どうすれば対応を変えられるか一緒に考える。また、自分を主語にしたコミュニケーションや、セルフケアについてアドバイスし、**共依存からの脱出を手伝う**。さらに**家族介入のチーム作り**を手伝う(職場・親戚・友人らにも同様の知識を共有してもらうなど)。
- ③**DV・虐待**等の有無を確認し、安全確保を最優先する。**離婚**についても、どんな社会的支援が得られるのか具体的な情報を与える。またDV被害者の支援機関に研修を行なうなどして、連携強化を図る。
- ④**家族も自助グループ**につなげ、仲間の中で、自分主体に生きることを応援する。
- ⑤**高齢者**の依存症では、老い先短いのだからと家族があきらめがち。回復率はむしろ高いことを伝え、希望をもたせる。高齢の家族や遠くの家族からの相談も増えているので、**アウトリーチ**もぜひ考慮を。



### 3. 回復・生活支援

- ① 自助グループなど仲間の中で飲酒にまつわる問題を正直に見つめるとともに、アルコール以外の**ストレス発散や楽しみ**を見つけ、生活を立て直す回復プログラムを実践できるよう支援する。
- ② 失職している場合は、回復が軌道に乗るまでの生活扶助と就労支援。就労している場合は、**回復支援の方法を職場に知らせる**（周囲が飲酒を勧めない、自助グループに通えるよう配慮する、**産業医等が定期的に面接して治療や自助グループ参加の継続をチェックする**など）。
- ③ **家族のサポートを継続**する（回復プロセスの説明、コミュニケーションの方法やセルフケアなど）。自助グループでの分かち合いが助けになることを伝える。
- ④ 高齢の依存症者では、地域包括や訪問看護・介護などのアウトリーチ機関を引き入れるなど、**連携のコーディネート**を行なう。高齢者支援機関への研修が必要。



## 4. 地域連携してほしいところ

保健所 (ぜひ地域連携のかなめに)

精神保健福祉センター

保健センター

産業保健

救急

一般医療

警察(生活安全・交通安全)

自助グループ

専門医療

社会福祉協議会

福祉事務所

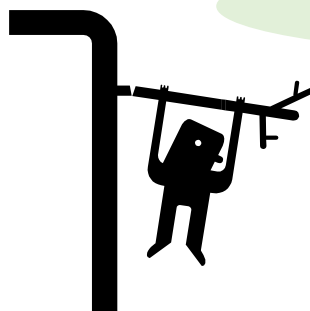
回復施設

地域生活定着支援センター

地域包括支援センター

DV 被害者支援機関

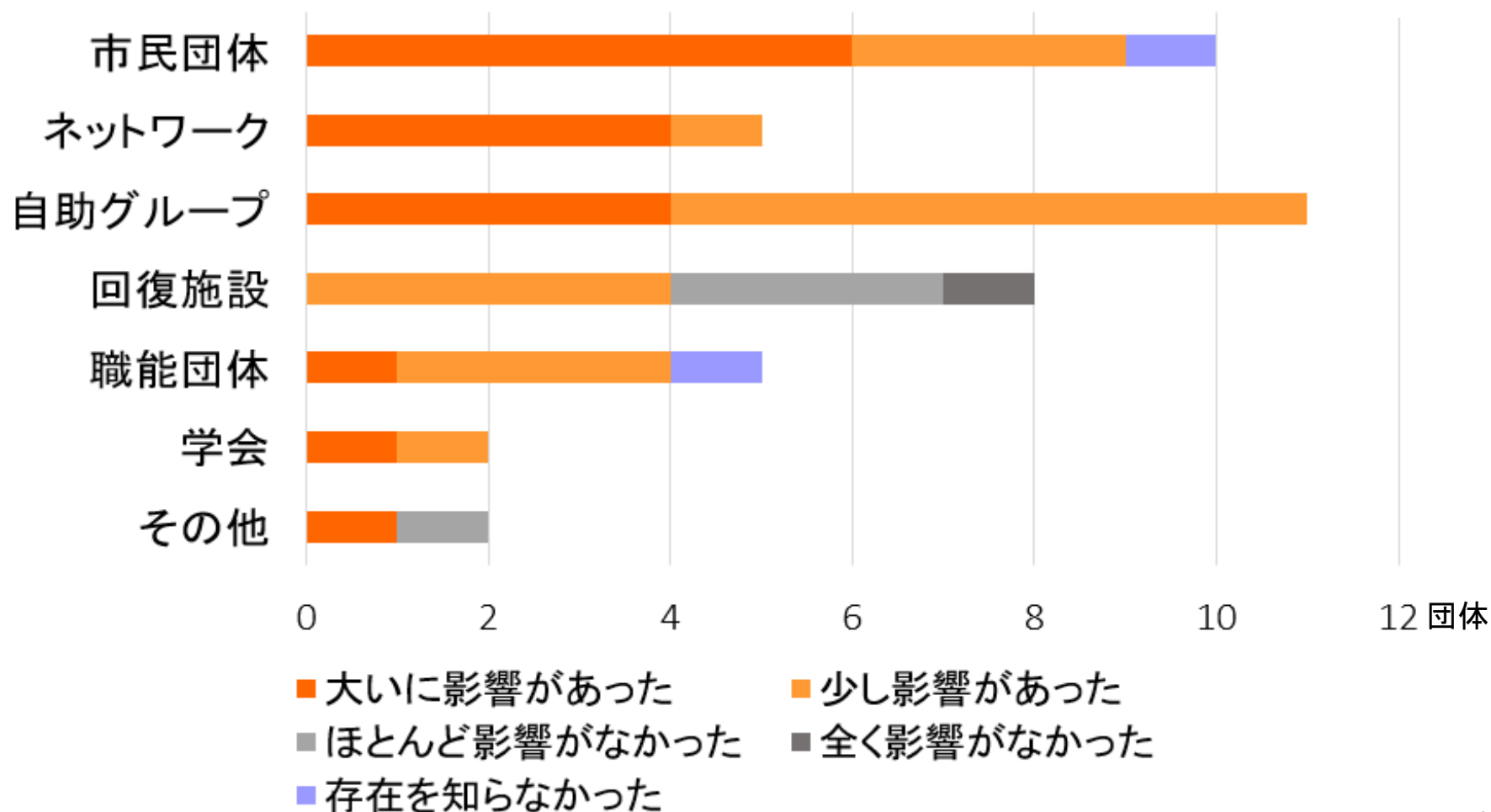
訪問看護・訪問介護



# アルコール関連問題に取り組む民間団体へのアンケート調査 アル法ネット2019年度

## 基本法・基本計画・都道府県推進計画の 活動への影響(団体の種類別)

N=43団体

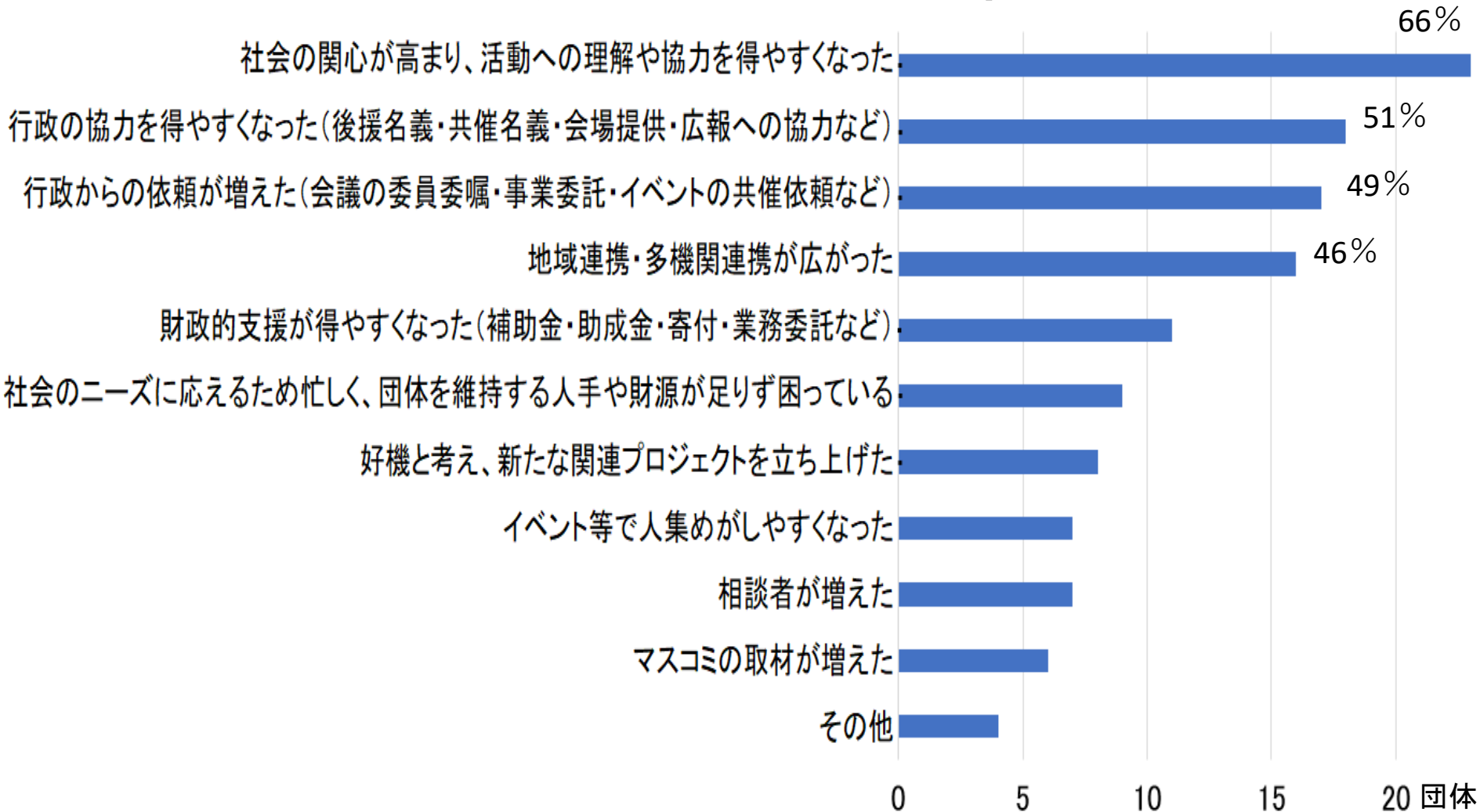




# アルコール関連問題に取り組む民間団体へのアンケート調査

## アル法ネット2019年度

### 活動への具体的な影響



## 全国団体から

- 全国規模の依存症民間団体の活動支援に**国が直接補助金**を出すのは画期的なシステムで、民間団体にとっては意欲と熱意を形にすることができるし、国にとっては対策を割安に進めることができる。各団体の活動内容を公開して効果を示し、増額をお願いしたい。
- 現状1団体1事業に限定しているが、**事業数枠を増やす**方向で検討してほしい。
- 民間団体への**業務委託**も行なわれるようになってきたのは画期的。入札業者よりよほど熱意があるので、増やしてほしい。
- 国の**委嘱先**として民間団体の支援を格上げしてほしい。
- 法人格のない全国規模の民間団体やネットワーク**の活動にも財政的支援があるとありがたい。

## 地域団体から

- 地域民間団体の支援は、**地域格差が大きい**。国から地方自治体への強い要請をお願いする。かつ、**予算の国庫負担率を上げて**、地域自治体の計画を支援してほしい。
- 自治体の民間団体支援が進んでいない。国と自治体が半々なので前に進まない。**10/10**で交付される民間団体向け補助金を。
- 補助金ではなく**委託事業**にしてほしい。年度末まで補助金が入らず、団体の運営委資金に苦慮している。
- 当事者活動に**会場などの無償提供**を。
- 人物金の全てが足りません。現実的具体的な**自助グループ支援**を要望します。
- 小規模団体は資金もなく現状維持すら危うい。**何から何までが自弁**で活動してきたので、おのずと活動を縮小するしかない。
- 自助グループでは会員数が減少し、運営費に苦慮。**自助グループ支援の強化**を。

## 回復施設から

- **中間施設の意義**を計画に記述してほしい。
- **刑務所からの入寮者**が増えている。帰住地先がないためグループホームに入寮を希望される。収監中に刑務所内でどのような状態の方であれ、障がい福祉サービス関係の書類を作成して頂きたい。施設運営上、損失が発生するので。
- 依存症からの回復の方法を、**回復者本人から市民**に向けてメッセージの形で知らせる機会を、行政に用意してもらいたい。
- **就労支援**をもっと強化していただきたい。
- 行政や医療機関は、もっと積極的に**民間団体へつなげて**ほしい。
- **SBIRTS**の最後のSにも力点を置いてもらいたい。

## 地域支援対策について

- 行政・医療・民間団体（自助グループ）の連携を確実にするため、**SBIRTS**の展開を計画に明記し周知してほしい。
- 対策のキモは「**連携**」。省庁間、自治体間、関連機関など連携の強化。地域連携、医療連携を推進する効果的な方策（モデル事業など）。自助グループとの連携を強化する**SBIRTS**の推進。
- **SBIRTS**の推進、地域連携の推進の2つを全国拠点研修に取り入れて広めて。
- **相談窓口**をもっと強くアピールして。
- **日々の相談・支援体制**の充実、周知。
- アルコール関連医師の数が足りない。**手軽に受診**できる社会になってほしい。
- **過疎地**及び**高齢化**対策。
- **節酒治療**が取り入れられてきているが、問題は、家族がそれを望むかどうか？節酒治療は**家族の声**を聞いて判断

## 啓発について

- 依存症は回復できる病気という認識を広めること。依存症への**スティグマを払しょくし**、回復を応援する社会をつくること。
- アルコール依存症をはじめ依存症の**偏見性の排除**の周知徹底。芸能人を巻込んで啓発して欲しい。また断酒継続すれば**回復できる病気**であることも伝えて。
- 依存症回復擁護**月間**の設立。
- 依存症啓発用の「**標語**」を懸賞募集し、「うつ病の人にがんばれと言わない」みたいな、一言で依存症の特徴を表わす「**具体的**」「**役に立つ**」「**使える**」言葉が欲しい。
- アルコール依存症が**自殺要因**のひとつとして存在していることを知ってもらう。
- 法律ができたことすら知られていない。もっと**メディア**を巻込んで欲しい。
- **メディア**を使ってもっとPRしてもらいたい。人の目や耳に残るように。
- 習慣飲酒だけでなく、事故や事件につながる**ビンジ飲酒・HED**(一時的多量飲酒)の危険性について啓発すること。
- 飲酒とリスクの**ガイドライン**の普及、**含有アルコール重量のビジュアル表示**、**女性と高齢者**のリスクの啓発
- 啓発週間中に実施される**厚労省主催、地方自治体と共催の啓発フォーラム**の開催県数及び参加数が減少傾向。国と自治体の広報活動を確立してほしい。
- 民間ネットワークの**啓発イベント**に、行政職員が準備段階から参加してくれると、「顔の見える連携」がさらに深まると思う。
- テレビでビールの**コマーシャル**が相変わらず飲酒欲求を誘うものになっているので、逆に健康障害を起こすと怖いこともテレビで流すのも必要かと思います。
- **動画**の制作やアップロード。

# 平成30年度スタート **依存症民間団体支援事業**について

厚労省のサイトで公募→応募申請→審査→交付決定 平成30年度は以下の8団体

厚労省  
サイトに  
実施報  
告掲載

アスク	ASK依存症予防教育アドバイザー養成事業
全国薬物依存症 家族会連合会	「薬物依存って、ナニ？」広報ビデオ制作事業
全日本断酒連盟	SBIRTS 普及促進セミナーの展開 ー受診後のアルコール依存症患者支援のためにー
全国ギャンブル依 存症家族の会	家族会立ち上げ事業
ギャンブル依存症 問題を考える会	「タフラブ」プロジェクト
日本アルコール関 連問題ソーシャル ワーカー協会	アルコール健康障害対策基本法推進啓発研修事業 「ソーシャルワーカーのためのアルコール依存症回復支援基 礎講座」
いちごの会	『依存症の理解と関わり方を学ぶ』 地域ネットワークづくり関係者研修会
日本精神保健福 祉士協会	アルコール健康障害・薬物依存症・いわゆるギャンブル依存 からの回復のための地域ネットワーク構築にむけたソシヤ ルワーク人材養成及び普及啓発事業



# ASK依存症予防教育アドバイザー養成事業

「正しい知識」「ライフスキル」「回復の実感」を伝えることで、予防と偏見是正を同時に図りつつ、回復を応援する社会をつくる！

準備期間の0期 + 補助金事業の1～3期 = 計104名

回復者29名 家族20名 支援者55名

2019年度、アドバイザーが実施した講演数は210、地域は43都道府県にのぼった。Facebookグループで交流し、情報交換や連携が盛んに行なわれている。



## オンラインルーム 自主活動

緊急事態宣言下の4月20日、自助グループメンバーでもあるアドバイザーたちが連携し、SkypeチャットとZoomミーティングによるオンラインルーム活動を開始。

5月、ルームDとNに家族のルーム開設。宣言解除後も継続し、開始後3カ月弱で6ルームの登録者が163名に。リアルของกลุ่มにつながる人も出ている。支援者メンバーと連携、病院や大学にオンラインで体験談を届ける活動も実施。

### Room A

アルコール依存症  
アノニマス系

### Room D

アルコール依存症  
断酒会系  
家族のRoom DF

### Room N

薬物依存症  
家族のRoom NF

### Room G

ギャンブル依存症